

学校経営と学校図書館					単位数	2単位
授業コード	16400	科目ナンバリング	520Z0-2340-x2	開講年度学期	2024年度第 1 期	
担当者氏名	赤木 雅宣					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
学校教育における学校図書館の意義や役割、経営のあり方、司書教諭の任務と役割等、学校図書館全般についての基本的な事柄について講義する。そのうえで、学校図書館の基本計画を作成して、よりよい学校図書館運営について考える。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	学校図書館全般についての事柄を理解するとともに、学校教育の中で、学校図書館や司書教諭の果たすべき役割について考察する。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	理想の学校図書館像を描いて、学校図書館運営計画等を作成する。				思考・判断・表現力／主体性	
3	学んだことをポートフォリオ等にまとめ、振り返ることで、学校図書館司書教諭の役割を自覚する。				主体性	
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業中の取り組み（討論への参加ほか） 30点				1／2／3	
2	小レポート（課題） 30点				1／2	
3	最終レポート 40点				1／2／3	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
小学校の現場で、教諭（図書館教育担当）、また、学校図書館司書教諭として学校図書館の運営や教育に携わってきた。学校図書館司書教諭として、学校図書館の運営計画を策定して、職員室の先生方に協力を求めた。また、各教科、領域等の年間指導計画をもとに、学校図書館蔵書の購入計画等を考えた。これらの経験もとに、学校経営、運営という視点から学校図書館の在り方を明らかにしていき、学校図書館の役割や使命についての実践的構築を促す。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. 学校図書館の理念と教育的役割 2. 学校教育の中における学校図書館の重要性 3. 学校図書館の意義と役割（学習） 4. 学校図書館の意義と役割（読書） 5. 学校図書館の意義と役割（情報） 6. 学校図書館の機能性と快適性 7. 学校図書館の成立と制度化 8. 学校図書館を支える人々 9. 司書教諭の任務と役割 10. 司書教諭の仕事の実際（小学校） 11. 司書教諭の仕事の実際（中学・高校・特別支援学校） 12. 学校図書館の校外連携 13. 学校図書館の校内連携 14. 学校図書館の実践・評価・改善 15. まとめ						

試験等
最終レポート
試験のフィードバックの方法
「15 まとめ」の中で、最終レポートに求めること（内容）を伝え、フィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業内容を自分なりにまとめておくこと。 次回に向けての課題を伝えるので、考えをもち、簡潔に記しておくこと。このうち数回は、小レポートとして提出を求める。 （復習と予習で所要時間30～40分程度を想定）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
○「学校経営と学校図書館」 2019年 ISBN978-4-7933-2274-7 公益財団法人全国学校図書館協議会「探求 学校図書館学」編集委員会編 全国SLA（公益財団法人全国学校図書館協議会）発行
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
毎回授業で資料を配付する予定。
オフィスアワー
授業の中で知らせる。
連絡先
yukkuri@post.ndsu.ac.jp
留意事項

学校図書館メディアの構成				単位数	2単位
授業コード	16410	科目ナンバリング	520Z0-2340-x2	開講年度学期	2024年度第 1 期
担当者氏名	下園 和宏				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
児童・生徒及び教職員の様々な学校図書館への要求に応えるため、学校図書館の各種メディアの特性について学ぶ。また、その組織化、選択法と分類、目録の基礎などを学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、より良い学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につけ、学校図書館司書教諭としての基本的な考え方の構築を図る。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学校図書館メディアの種類と特性を知り、学習目標に対応したコレクション形成ができる。				知識・技能
2	学校図書館メディアの組織化の基本スキルの取得（分類、目録、件名の意義と原則を理解し、説明、応用できる。				思考・判断・表現力
3	学校図書館活用の観点から、地域、各校種によって状況の異なる学校図書館現場でどう応用するか、判断の基盤となる知識と課題解決力を育成する。				主体性
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業出席（40%）				1／2／3
2	授業中の課題（20%）				1／2／3
3	提出課題（10%）				1／2／3
4	試験（30%）				1／2／3
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第01回 団リエンテーション、学校図書館メディアの教育的意義と位置づけ 第02回 学校図書館メディアの種類と特性1_活字、印刷メディア 第03回 学校図書館メディアの種類と特性2_視聴覚メディア、その他メディア 第04回 学校図書館のコレクション構築 第05回 学校図書館メディアの授業での活用 第06回 図ディアの組織化(1)_組織化とは何か 第07回 図ディアの組織化(2)_日本目録規則の基礎 第08回 図ディアの組織化(3)_日本目録規則の応用 第09回 図ディアの組織化(4)_目録作成演習 第10回 図ディアの組織化(5)_日本十進分類法の基礎 第11回 図ディアの組織化(6)_日本十進分類法の応用 第12回 図ディアの組織化(7)_件名標目表 第13回 図ディアの組織化(8)_分類演習 第14回 図ディアの配置と利用_書架配置やサイン 第15回 学習のまとめ					

試験等
定期試験
試験のフィードバックの方法
試験実施後に結果及び内容の解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〔予習〕授業実施前に教科書の内容に目を通し、不明点及び疑問点を把握することが望ましい。（30分） 〔復習〕レジュメ及び講義内容の中で生じた不明点及び疑問点を、自ら調べることで解決することが望ましい。解決できなかった点はオフィスアワーやメールを活用し解決すること。（30分） 第6回から第13回にかけての組織化の内容においては、日本目録規則、日本十進分類法、件名標目表においては、本学附属図書館にて現物を確認することが望ましい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
探究学校図書館学 第2巻 学校図書館メディアの構成／全国学校図書館協議会「探究学校図書館学」編集委員会／編著／全国学校図書館協議会／2000／9784793322754／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
オフィスアワー：金曜日 5時限 授業終了後に教室で質問を受け付けるほか、メールでの問い合わせも可とする。
連絡先
shimozono@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・授業レジュメは授業実施時に配布。また、manaba folioにも授業終了後にPDFを掲載。 ・授業時の課題の制限時間は厳守。

学習指導と学校図書館					単位数	2単位
授業コード	16420	科目ナンバリング	520Z0-2340-x2	開講年度学期	2024年度第 1 期	
担当者氏名	伊木 洋					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
各教科・領域の学習における学校図書館の機能を理解し、教育活動の様々な場面で学校図書館を効果的に活用するための司書教諭としての役割を学ぶ。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	各教科・領域の学習における学校図書館の機能を理解し、教育活動の様々な場面で学校図書館を効果的に活用するための司書教諭の役割を記述することができる。					
2						
3						
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な参加姿勢 （40%）				1	
2	課題レポート （60%）				1	
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
中学校において司書教諭、教頭として、学校図書館の運営に携わっていた経験に基づいて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学校図書館の機能を効果的に活用していくために必要な司書教諭としての能力を指導する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1 現代の学校教育と学校図書館 2 教育課程の編成と学校図書館 3 学習指導要領と学校図書館 4 学校図書館における情報活用能力の育成 5 情報活用能力等の育成と評価（課題の設定） 6 情報活用能力等の育成と評価（情報の収集） 7 情報活用能力等の育成と評価（整理・分析） 8 情報活用能力等の育成と評価（まとめと表現） 9 情報サービスと学校図書館 10 発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択 11 学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備 12 教科等の学習指導の実際と学校図書館 13 総合的な学習・探究の時間と学校図書館 14 特別な教育的ニーズと学校図書館 15 司書教諭の役割と学習指導と学校図書館						

試験等
課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
課題レポートについてコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
学校図書館を活用した実践に学んでレポートを作成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学校図書館の機能を活用した学習指導のあり方について考えを深めること。(60時間)
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
学習指導と学校図書館／「探究学校図書館学」／全国学校図書館協議会／2000／9784793322761／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『中学校国語科学習指導の創造 学校図書館と学習者を結んで』，2018年，ISBN978-4-86327-424-2，伊木洋，溪水社（POD版のため個人で発注・購入すること） <参考書等> 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，2017年，文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，2017年，文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』，2018年，文部科学省 『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン 「主体的・対話的で深い学び」の実現』，2017年，ISBN978-4-7619-2388-4 C3037，稲井達也，学事出版
オフィスアワー
オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
連絡先
higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
教職課程履修生にふさわしいあり方で受講すること。 学校図書館を活用した学習指導のあり方に関心を持ち，実践的な問題意識を高めていくこと。 講義の中でPCを使用することがある。ノートPCを持参すること。 各時間の自己評価をコメントシートに記述すること。 課題への取り組みを充実させ，期限を厳守して提出すること。

試験等
授業の中でブックコミュニケーションの発表を行い、その取り組みとプレゼンテーションを評価。 授業の中で童話創作を行い、仕上げられた作品を評価。
試験のフィードバックの方法
授業の中で、全員のプレゼンテーションに対する講評を行う。 提出された全員の童話に対する講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回課題を提示するため、それに組み、授業を経て、気づきをまとめていく。（各1時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
『はじめよう！ブックコミュニケーション響きあう教室へ』村中李衣・伊木洋著 2019 金子書房 978-4-7608-3279-8 『「こどもの本」の創作講座 おはなしの家を建てよう』村中李衣著 2022 金子書房 978-4-7608-2441-0 * 2冊をテキストにして学んでいきます。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中）
留意事項
テキストをもとに自分たちで主体的に取り組まなければならないことが続きます。実践に結びつく力となりますので、毎回の課題を取りこぼすことなく学んでください

情報メディアの活用				単位数	2単位
授業コード	16440	科目ナンバリング	520Z0-2340-x2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	下園 和宏				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
学校図書館が「学習センター」及び「情報センター」としての機能を果たすために、学校や学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法等や情報メディアに係る児童生徒の保護・支援などを中心に講義する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学校図書館における情報メディアの種類や活用方法を知る。				知識・技能
2	学習を支援する学習センターの機能や児童生徒の情報リテラシーの育成を説明することができる。				知識・技能
3	情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に関する基本操作ができる。				知識・技能
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業出席（40%）				1／2／3
2	授業中の課題（20%）				1／2／3
3	提出課題（10%）				1／2／3
4	試験（30%）				1／2／3
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第01回 教育の情報化と学校図書館					
第02回 学校図書館と情報メディアの活用					
第03回 情報メディア活用能力と情報リテラシー					
第04回 教育メディアの歴史①_活字メディア、視聴覚資料等					
第05回 教育メディアの歴史②_コンピュータの活用					
第06回 情報メディアの種類と特性①_印刷メディア、視聴覚メディア等					
第07回 情報メディアの種類と特性②_デジタルメディア					
第08回 学校におけるICTの活用					
第09回 インターネット情報源と情報検索					
第10回 児童生徒の情報行動の実態と指導					
第11回 情報メディアの活用事例					
第12回 特別支援教育における情報メディアの活用					
第13回 情報メディアの活用と情報リテラシー①_情報モラル教育					
第14回 情報メディアの活用と情報リテラシー②_個人情報保護とセキュリティ					
第15回 今後の学校図書館の課題と方向性					

